

# グループホームらくらく(認知症対応型共同生活介護事業所)

## 1. 評価結果概要表

作成日 19 年 9 月 27 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1870300330
法人名	ケアファースト株式会社
事業所名	グループホームらくらく
所在地	越前市稲寄町12-8-5 (電話) 0778-22-0055

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2-3-22		
訪問調査日	平成19年8月8日	評価確定日	平成19年9月27日

【情報提供票より】 ( 19 年 7 月 17 日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 8 月 23 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6 人、非常勤 人、常勤換算 6 人	

### (2)建物概要

建物構造	木造スレート葺 造り		
	2 階建ての	~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	46,000 円	
敷金	有 ( 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり			円

### (4)利用者の概要 ( 7 月 17 日 現在)

利用者数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	3	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85.4 歳	最低 80 歳	最高 91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	東部内科外科クリニック、しみずクリニック、宮本歯科クリニック
---------	--------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>旧家が密集した一角に本ホームはある。外観は周囲の民家に溶け込み、内部は天井が高く、開放的で明るい造りになっている。リビングや食事をするスペースも十分な広さがあり、さらにテーブルやソファ、テレビや小物など一般家庭用の物を使っていることで家庭的でゆったりした雰囲気が感じられる。入居者の表情は皆穏やかで、職員は入居者一人ひとりの個性を捉え、個々のペースを尊重したケアを心がけていることが、ヒヤリングや実際のサービス提供の場面で見受けられた。また、ケアの取り組みの一つとして今年から取り入れた学習療法や工作を用いた療法で感覚を意識的に刺激することで、入居者の元気を養ったり、入居者同士の関係がより良くなるなど生活の向上につながっている。ホームの理念でもある「ノーマライゼーション」を実現するために、入居者の外出支援のほか、地域住民からの理解を得るためホーム便りを地区の回覧板で回したり、運営推進会議で地域のひととの懇談会を実施している。</p>
--

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>入居者に関わる時間については、業務内容や優先順位の見直し、記録の時間の短縮化により、増やす努力がなされている。また、学習療法や工作を用いた療法を取り入れることで、入居者の日々の生活がより向上するよう工夫がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の段階でホームの課題を把握し、対策を検討しているため、今後は、外部評価結果も踏まえた改善の取組みを期待したい。また、改善に当たっては、研修等の取組みの充実や学習療法等新たな取組みの継続的な実施という観点からも、人員配置についての見直しが必要とされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議では、地域交流について検討はしているものの、ホーム側からの提案が主で、地域のひとと積極的に議論を交わすまでには至っていない。話し合いの進め方や地域に理解していただくことの難しさを感じているが、グループホームが地域に根ざすことの重要性を地域のひとに認識してもらえるよう継続的な努力を期待したい。また、地域交流のみならずホームの取組み内容についても意見交換がなされ、地域の中のホームとして、住民が望むホームづくりも期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>苦情については、その受付窓口や解決の流れなど重要事項説明書に記載されているほか、ホーム内に掲示もされているが、実際に苦情が申し出られたことはない。家族からの意見については、ご意見箱の設置による意見収集のほか、ホームに来られた際に、職員による丁寧な聞きとりがなされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民謡や紙芝居といった催し物のボランティアを受け入れたり、入居者が散歩する中で挨拶を交わしたりといった交流がある。今後はさらに自治会の加入、老人会、学校行事等への参加、近所の方が日常的に入居者と関わったり一緒に物事をするなど、「お隣さん」のようなお付き合いができるよう期待したい。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>			
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「ノーマライゼーション」の実現について述べられている。更に11項目からなる職員の目指す姿の中に具体的にホームが地域に開かれたものになることや入居者が地域社会の一員として生活することを支えることが明記されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員同士がミーティングで確認したり、普段のケアの場面において反映されるよう心に留めていることがヒヤリングにて確認できた。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの方に民謡や紙芝居のボランティアとして来てもらったり、散歩時に近所の人と挨拶を交わすなどの関わりが持たれている。自治会の加入や老人会への参加、ホームの地域開放などの提案が運営推進会議等で行われているが、実現にまでは至っていない。		地域住民に理解を得ることは必ずしも容易ではないが、自治会の加入や老人会への参加など少しずつ地域との関係を作りながら交流の機会を見出されることを期待したい。
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえて業務の見直しを行い、入居者と関わる時間を増やしたりするなどして、さらに活気のある生活が送れるよう取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの様子を参加者に伝えたり、意見交換を行っているが、ホーム側からの報告・提案等が主で、地域の人との積極的な話し合いの機会をもつまでには至っていない。		運営推進会議では地域の人との活発な意見交換を通じて、ホームをより理解してもらおうとともに、サービスの質の向上に活かす工夫等を期待したい。
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課に月に1回は訪問し、ホームのPRや意見交換を行っている。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りや入居者個人の近況を記したお便りを送付している。また、疾病等については必要に応じて電話連絡を行ったり、家族の訪問時に職員から説明を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時等に意見や要望等を聞いている。また、ご意見箱も設置し、意見収集を図っている。出された意見については、できるだけ改善に結び付けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職に伴う新任の職員については、入居者とコミュニケーションを図り信頼関係ができた上で、具体的な身体介護に入るように配慮がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加等を都度案内しているが、人員配置や業務の都合上、参加ができていない。		認知症ケアについて見識を深め技術を磨くためにも外部研修等の積極的な参加が望ましい。そのためにも人員配置や勤務体制の工夫が求められる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡会への参加や他のグループホームの見学等を行い、グループホームそのもの見識を深めたり、自己のホームの運営等の気づきを得ている。		
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの居室にこれまで本人が使い慣れた家具等を入れて入居者が安心感を得られるよう努めている。また、入居したばかりの方が他の入居者と上手くなじめるよう、職員は意識的に声かけや、輪に入られるよう雰囲気作りを工夫している。		入居者の中には、馴染みの物が少ない居室もあり、職員が働きかけでも家族の協力が得られないケースもあるとのことである。入居相談の時点で入居する本人にとって馴染みの物があることの意義を説明するなど、協力を得られる働きかけを期待したい。
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に過ごすことの大切さや喜怒哀楽をともにしたり、支えあう関係を心得ていることが職員のヒヤリングで感じられた。また、実際に食事や作業の場面において、職員と入居者がテーブルを囲んで会話を楽しみながら行っている様子が見られた。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人から意向を聞くほか、言葉になかなかできない方についても日々の動作や様子、素振りで思いを汲み取っている。また家族からも入居者のできることできないこと、好みや趣味、これまでの暮らしぶりなどを聞く機会がもたれている。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画を作るにあたり本人の希望や家族の意見を組み入れている。また、職員間で意見交換を行い、そこで出たアイデアや提案を取り入れて計画を作っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施されているサービスとその時の入居者の状況については随時記録を行い、半年に1回を目安に入居者の状態の変化に応じ、計画の見直しを行っている。見直しに当たっても、ご本人や家族、職員と意見交換を行っている。		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接しているデサービスとの行事等の交流があるほか、デイサービスの看護師からも随時支援を受け、入院の回避や退院後のホームでのケア面でのフォロー体制がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関へ家族が連れて行くが、必要に応じて職員も同行し、主治医や看護師と情報交換や支援を行っている。また、受診以外でも必要に応じ、かかりつけ医と連絡を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りについては体制が整っていない。終末期が近づいた段階で家族やかかりつけ医、看護師と相談し、どこまでどこでどうやって看取るかなどの話し合いを実施している。		看取りの意義やホームの方針について職員間で話し合ったり、体制を持つための具体的な取り組みを今後期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ介助や着脱衣介助も個々の居室にて支援を行っている。居室に入るときも入居者に声をかけて入室している。会議は事務室で行い、記録文書も用途に分けてファイリングし、不必要に外へ持ち歩かないなどプライバシー保護の徹底がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の押し付けにならないよう職員は配慮している。できることは入居者個々のペースで行ってもらい、職員は見守りにより支援している。また、その人らしい生活の実現に向け、これまでの暮らしぶりなどの把握に努めている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者と職員と一緒にテーブルについて会話を楽しみながら行っている。食器、テーブルセットといった設備面のほか、食事を楽しむ雰囲気作りにも職員は心がけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・火・木・金の週4日入浴日が設けられ、入居者は週2回入浴している。また、希望により毎日の入浴も可能である。入浴は入居者が個別に職員の介助を受けながら行われており、自分の好きな長さで入浴ができる。入浴を拒否される方についても無理強いせず、声かけや入浴日の変更などで対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	工作道具、パズル、ラジカセ、畑道具などが揃えられている。入居者のこれまでの暮らしや趣味などの情報や実際の入居者の要望や様子をみて、調理等の役割分担や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気候のよい日は近所の神社へお参りがてら散歩したり、週に何回か食材の買出し等に出かけている。理美容室についても、希望があれば好みの店へ通う支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が職員の目の届きにくい場所にあるため常時鍵がかかっている。居間から中庭へ、中庭から外へも出られるようになっており、これは鍵はかかっておらず入居者は自由に行き来できている。入居者が出て行っても無理に戻さず、見守りを続けたり、さりげなく声掛けを行って様子を見るなどの対応がなされている。		中庭から外へ出られるようにはなっているが、玄関についても日中鍵をかけない工夫を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導で消防訓練を行っている。火災等のあった時のマニュアルを作るなど対策がなされている。近隣者との連携についてはまだ話し合いをもつことの提案段階であり、具体的な協力体制等はできていない。		今後近隣者との関係作りを進めていく中で、災害に対する協力支援体制等が確立されることを期待したい。また、災害時の備蓄についても確保されることを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養バランスを考えて作られている。必要に応じて食べ残しをチェックし、入居者の状態把握を行っている。水分も食事やおやつ時等、定期的に摂取するよう支援している。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井が高く明るい。空調も適度で過ごしやすくなっている。居間は家庭的なテーブルやソファセットが配置され、心地良い空間となっている。居間から見える中庭には季節の野菜が実る畑が見えるなど工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に当たりそれまでの馴染みの家具や小物の持込みを勧めている。また、ホームで取った写真や工作で作った小物など自由に飾られており、入居者の個性を生かした部屋作りがなされている。		

    は、重点項目。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作成しホーム内に掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目に届くところに掲示し、意識を持つようになっている。		
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	いつでも見れるようフロアに掲示している。		
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	頻繁な交流はないが、散歩等の機会に挨拶などしている。		
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の主催する「いきいきサロン」に協力して月に1回程度、デイサービスのホールを開放することを検討中。		
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状は実施できていない。		
<b>3 理念を实践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を、十分理解するよう努め、結果を職員同士で話し合い可能なことから改善し、実施している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進懇談会では、入居者の家族、地域の民生委員などの参加していただき、現状報告や話し合いを行っている。会議録は、スタッフが共有し、改善に活かせるよう努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	意識して月に1回程度市の窓口を訪れて意見の交換をするよう心がけている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去3年間では具体的な事例(必要性)は認められない。		今後は研修の機会等に参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、広報誌で虐待事例などを読み、職員も意識を持ち一人ひとりに浸透するように努めている。		
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族と面談し、現状説明を行い、疑問に答える機会を設けている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情解決の仕組みを掲示している。当事業所でも苦情相談委員会を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを作成し、家族に送付するときに近況の手紙など同封している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の機会に、十分話を伺うようにしている、また御意見箱を設置している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回(水)社内連絡会の場を利用つど対応している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	隣接のデイサービス職員も含めた弾力的な人員サポート体制を実施している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職者発生の場合は、原則1ヶ月の引き継ぎ対応を実施している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の案内(例:県社協の年間計画)を都度紹介、自己研鑽を促している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流の機会を持つようになっている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	隣接するデイサービスとのレク・交流等の機会を利用して懇談に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	専用日報(連絡帳)にてコミュニケーションを図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と直接面談し、話を伺う中で何が困っているのか聴ける状況、雰囲気作り、共感を持つようになっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人との話を十分聞くよう努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の求めているものにズレがある場合が多いが、今必要なことを優先している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しでも混乱をなくすよう本人の馴染みのものを持ってきてもらい、本人のいる場所、安心する場所に近い状態としている。		定期的な家族訪問による家族に絆を深める様に努め、安心感を持つように努める。
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と目線を合わせての会話や、それぞれの得意分野を活かし畑の作り方などを教えてもらう。		介護者の常識を押し付けることなくパーソンセンタードケアのスタンスで共に進めていく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に近況報告、また要望がないかなど伺うようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の関係を十分把握し、どちらにも負担にならないよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り外出などは、面会時をお願いをしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同志の関係性を把握し、誰かが孤立しないよう仲間意識を持てるよう支援している。		チームでの作業参加等の場を設け仲間意識作りに努めたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方、入院された方々との面会等も頻回ではないが、行っている。また、出来る事の相談に乗れるよう話をしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況、出来ること、出来ない事の把握アセスメントし、それに基づいて本人主体のサービス提供に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャーなどからの聞き取りや、情報提供票などを活用している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録や申し送りなど日々の情報を共有できるよう努めている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、家族から本人の生活状況、毎日の生活の中から出来ること出来ない事を把握し、作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成時より、あまり変化は見られないが、状況の変化があれば家族に伝え、必要な関係者の意見も聴き、計画の見直しをしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の気づき、変化など生活記録を個々に記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接しているデイサービスでの、行事参加をしている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	紙芝居、民謡などのボランティア、防災訓練を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接しているデイサービスなどとの交流を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホーム入所時には、支援センターと情報交換しながら指導を受けることがある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて個別に家族と職員が付き添い、かかりつけ医に受診に行っている。また、協力医院による往診を月2回実施している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の診断を受けられるよう支援している。また電話での相談にも応じて頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護師に随時支援を受けている。また、かかりつけ病院の看護師と気軽に相談し、日常の健康管理に活かしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に医療機関と連絡を取り合い病状の把握に努め、退院後の対応に配慮しながら早期退院を促している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族、かかりつけ医と相談し、よりよい方法を話し合っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>当ホームでは設備が整っていないため、重度、終末期の受け入れはしていない。</p>		<p>受け入れができるよう個々に研修会を行い、体制を整えることから始める。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の納得、了解を得よう十分話をするように努めている。サマリーや日常生活で本人が困らないよう、出来ていること・出来ないこと伝えている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人のプライバシーは尊重し、また記録等も個々のファイルにし十分注意を払っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>分かりやすい声かけ、何をしたいかを探り自己決定・自己実現できるよう、職員は極力手を出さず見守りながら支援していく。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>強制はせず、ある程度の生活のリズムを作れるよう支援している。</p>		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一人ひとりに合わせた衣服、理美容店の訪問をお願いしている。また個人で行きたい美容室にも行っている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る方には、テーブル拭き、お茶入れの準備、後片付けのできる方は、厨房まで食器を運ぶ、また行事などでは特別メニューを提供している。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒・喫煙者はいないため現在は行っていない、嗜好品については本人の希望があれば出来る範囲で楽しんでもらっている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックし、パターンを見ながら誘導、プライバシーに配慮し声かけをしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後から週4回、各自週2回の入浴日としているが、希望があればいつでも入れるようにしている。入浴順は毎回交代で入っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中の睡眠時間を調整し夜間の不眠を招かないよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに、役割を持ってすごしている。洗濯を干す人、たたむ人、工作の後の掃除をする人など出来る範囲で実施していただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員がお金を持っているわけではないが、所持している方は買い物で支払いしている。他の方は、立て替え払いをしている。		全員がお金を持ち買い物ができるようにしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	専用車両がなく、デイスサービス使用時間の制約があるため、ゆとりを持った外出はできていない。ホーム周辺の散歩などに出かけている。		いつでもゆとりを持った外出ができるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として計画を立てるが曜日が決められてしまうこともあり、行楽地への混雑と重なってしまう、また天候に左右されるため、外出ができない時もある。		いつでもゆとりを持った外出ができるようにしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときは、支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に立ち寄っていただけるよう心がけている、面会時に記帳していただき、面会状況も確認できるようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一度も実施したことはない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常時鍵をかけている、一人で外に出ることはないが安全のため鍵をかけている。ベランダなどは、鍵はかけない。		玄関が、死角となり出入りの把握ができないため鍵をかけてしまう。玄関設置場所の変更も考え、検討する必要がある。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の所在確認、夜間の巡視を行い安全点検を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事務所キャビネットに保管し、目に触れないようにしている。またハサミなどは、使用後に個数の確認をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホームのマニュアルを作成している。職員の目につくところにある。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成し対応している。また夜間の、緊急連絡マニュアル作成し、職員全員が迅速な対応ができるよう努めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導訓練を受けている。また地域の方の協力を得られるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用契約時にリスクに関しての説明は行っている。状態変化時には予測されることについての説明や対応について家族に説明している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調変化が見られたときは、バイタルチェックを行い主治医に指示を受けるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康チェックファイルに、必要な情報、症状、内服薬処方箋など添付しており、常時確認できる。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック票に記入し、個々の便の性状の確認をしている。繊維物の摂取、水分量、また体を動かすよう支援している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ、介助の必要な方には援助し、義歯の方には、毎日の洗浄を実施している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの、食事形態を把握し水分量のチェックもしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザなどの予防接種は受けている。また感染症対策マニュアルを作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	検食2週間分保存している。食事前の手洗い、消毒。毎回の食事作りの後は、ゴミの始末、食器・調理器具の消毒を行っている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープと手すりが設置しており、ところどころにプランターに季節の花が植えてある。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、花飾り、写真、作品等ホーム全体を我が家の雰囲気になるよう努めている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファ、食堂のテーブルを囲みながら、思い思いに過ごされている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを持ち込み使用していただいている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の窓の開閉、換気扇の使用など状況に応じて行っている。居室内の冷暖房はこまめに調整をしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、必要部分に手すりが取り付けられており段差もない、自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室は本人が見やすい文字で名前をつけたり、印として縫いぐるみなども下げている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には、洗濯干しがあり、畑があり、ベランダにはベンチが設置してある。外気欲を楽しんだりして過ごしている。		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・学習療法(公文式)を始めてから1対1で入居者との目線を合わせることで、今まで気づけなかった事が少しずつ分かるようになってきているまた会話が増えてきている。  
・今年の2月頃より入居者全員参加で始めた工作、それぞれの得意とする分野ができるようになり、誰かがホールにいと自然に集まりチヨキチヨキとハサミの音がしてくる、お互いしら顔だったのが、現在では皆知り合いになってきている。ある人はいつも、居室を間違え叱られていたが、この頃では間違えなくなってきた、言葉数も多くなってきているといった状況になってきています。